

平成30年度 事務事業評価シート

(単位:千円)

事業属性	事業名(コード)	JR福知山線複線化等促進事業			110101	担当課	生活交通課	
	開始年度	昭和39(1964)	終了予定年度	平成32(2020)	作成責任者	横山 晋		
	歳出費目	款) 総務費	項) 総務管理費	目) 交通対策費	決算附属資料	80	頁	
	施策の大綱	公共交通の最適化			関連計画等	-		
	施策名	利用しやすい鉄道機能を確保する			根拠法令等	-		
	事業区分	<input type="checkbox"/> 法定受託事務 <input type="checkbox"/> 国府補助事業 <input checked="" type="checkbox"/> 市単独事業 <input type="checkbox"/> その他 ( )						
基礎情報	事業目的 (あるべき姿)	JR福知山線(篠山口駅~福知山駅間)の複線化を早期に実現し、沿線地域経済の活性化及び鉄道網の拡充による利便性の向上を図り、住民福祉の向上を図る。						
	対象者	全市民	対象者数	78,956	一人当たりコスト	0.02		
	実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 業務委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> その他 <委託先・実施主体等>						
	事業概要	JR福知山線の複線化早期実現に向けて、JR福知山線沿線自治体(福知山市、丹波市、篠山市、三田市)で構成する福知山線複線化促進期成同盟会を母体に関係機関への要望や利用促進策・情報交換等を行う。						
	主な経費と 具体的内容 (H29実績)	項目		具体的な内容			H29経費	
		負担金補助及び交付金		福知山線複線化促進期成同盟会等への負担金			100	
旅費		JR本社等要望活動旅費			149			
報償費		瑞風歓迎イベント謝礼			10			
需用費		消耗品費(プリンタインク)			19			
関連事業	鉄道利用促進事業							
予算と執行の 状況	区分			H28	H29	H30	H31要求	
	事業費	当初予算...①		323	323	347	0	
		補正予算...②		△ 15	△ 45	0	0	
		繰越し等...③		0	0	0	0	
	財源内訳	一般財源		308	278	347	0	
		国支出金		0	0	0	0	
		府支出金		0	0	0	0	
		地方債		0	0	0	0	
		その他特財		0	0	0	0	
		特定財源名称 (H29実績)					頁 頁	
	職員人件費	従事職員数(正職/嘱託)		0.12/0	0.12/0	0.12/0	/	
概算人件費...④		960	960	960				
総事業費(①+②+③+④)...⑤			1,268	1,238	1,307			
執行状況	執行額...⑥			308	278			
	執行率(⑥/(①+②+③)×100)			100.0%	100.0%			
業績指標	成果実績 (アウトカム) 実績/当初目標	指標	単位	H28	H29	H30	最終目標	
		JR福知山市内駅平均乗客数	人/日	4,458/4,466	4,467/4,495	/4,524	4,611	
		要望採択数	件/年	2/13	3/14	/	14	
	活動実績 (アウトプット) 実績/当初見込	指標	単位	H28	H29	H30	最終目標	
		要望活動実施回数	回/年	2/3	3/3	/	3	
		単位あたりコスト		154.0	92.7			
			/	/	/			

		項目	評価	評価に対する説明
一次評価 ▽担当課による自己評価△	必要性	市民や社会のニーズを的確に捉えた事業か	○	複線化や利便向上のための施設整備には乗客数の増加が絶対条件であり、すぐに成果として結びつくものではないが、継続的に取り組んでいく必要がある。
		民間事業者や市民が自ら実施することのできない事業か	○	
		目的・目標の達成手段として適切で、優先度の高い事業か	○	
	効率性	受益者との負担関係や単位あたりコストは妥当な水準か	○	沿線地域と連携し一体となって要望活動、利用促進活動を展開することができ効率的である。
		他の手段や方法とのコスト比較は十分行われているか	○	
		コスト削減や効率化に向けた工夫が施されているか	○	
	有効性	成果目標は理にかなない、実績は適切に把握・測定されているか	○	沿線地域と連携し一体となって要望活動、利用促進活動を展開することによりスケールメリットが生まれ有効に取り組むことが出来る。
		活動実績は見込みに沿い、かつ投入資源に見合っているか	○	
		先事例の分析や外部資源の活用は十分行われたか	○	
		目的及び指標等の達成状況に対する評価	関係自治体が連携して取り組むことで、様々な要望活動・利用促進への取り組みができ、効果的である。	
	今後の課題及び方向性	沿線関係自治体等と連携を維持し、要望活動や利用促進活動を継続的にを行い、沿線の開発及び住民福祉の向上を図る。		
庁内及び外部による評価	二次評価 (庁内) 【行革担当課記入】	所 見 ・本事業をもとに関係市町村と連携しながら要望活動等を長期継続的にを行い、特急の本数増加などの成果をあげている点は評価できる。 ・現在の状況から考えると本事業の根本である複線化は難しそうなので、その点だけに特化せず、引き続き別の要望や観光と合わせた取り組みなど、現状把握をしっかりとした上で、現実に即した取り組みも進めていきたい。 ・複線化の要望と合わせて、近隣市と連携したスケールメリットを生かし、より現実に即した活動(ダイヤ改正や増便、駅の整備等)や超高速鉄道の整備促進などの将来的な鉄道利用に関する活動に注力してもらいたい。		
	三次評価 (外部) 【行革担当課記入】	所 見		
来年度方針	担当課の事業の見直し及び予算要求方針	方針区分	内 容	
		<input type="checkbox"/> 廃止/休止 <input checked="" type="checkbox"/> 他事業と統合し組替 <input type="checkbox"/> 予算縮減を伴う見直し <input type="checkbox"/> 予算増減のない見直し <input type="checkbox"/> 予算拡充を伴う見直し <input type="checkbox"/> 事業の見直しなし	平成31年度から、同目的事業である丹鉄利用促進事業、丹鉄関連施設管理事業とともに、鉄道利用促進事業に統合し、その中で引き続き同様の取組を進める。	
	予算への反映 【財政担当課記入】	予算額の反映状況(対H30)	担当課の見直し・要求方針に対する所見【行革担当課記入】	
		<input type="checkbox"/> 維持 <input type="checkbox"/> 組替 <input type="checkbox"/> 縮減 <input type="checkbox"/> 廃止/休止 <input type="checkbox"/> 拡充		

平成30年度 事務事業評価シート

(単位:千円)

事業属性	事業名(コード)	丹鉄利用促進事業 (110103)			担当課	生活交通課		
	開始年度	平成3(1991)	終了予定年度	平成32(2020)	作成責任者	横山 晋		
	歳出費目	款) 総務費	項) 総務管理費	目) 交通対策費	決算附属資料	80	頁	
	施策の大綱	公共交通の最適化			関連計画等	-		
	施策名	利用しやすい鉄道機能を確保する			根拠法令等	-		
	事業区分	<input type="checkbox"/> 法定受託事務 <input type="checkbox"/> 国府補助事業 <input checked="" type="checkbox"/> 市単独事業 <input type="checkbox"/> その他 ( )						
基礎情報	事業目的 (あるべき姿)	京都丹後鉄道大江駅の集改札業務を委託することにより、特急列車の停車に対応する。あわせて階段昇降機の運営を委託する。 京都丹後鉄道沿線自治体等で組織する「京都丹後鉄道利用促進協議会」に分担金を負担し、沿線住民のマイレール意識の高揚と利用促進のための広報宣伝活動を実施する。						
	対象者	京都丹後鉄道福知山市内駅乗客	対象者数	543,367	一人当たりコスト	0.01		
	実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 業務委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> その他 〈委託先・実施主体等〉 大江観光株式会社・京都丹後鉄道利用促進協議会						
	事業概要	京都丹後鉄道大江駅集改札業務 京都丹後鉄道大江駅階段昇降機運営委託 京都丹後鉄道利用促進協議会への分担金負担及び利用促進事業の実施						
	主な経費と 具体的内容 (H29実績)	項目		具体的な内容			H29経費	
		委託料		大江駅の集改札及び階段昇降機の運転			3,240	
負担金補助及び交付金		京都丹後鉄道利用促進協議会分担金			150			
旅費		京都丹後鉄道利用促進協議会出席旅費等			40			
役務費		大江駅階段昇降機保険料			4			
関連事業	丹鉄関連施設管理事業							
予算と執行の 状況	区分			H28	H29	H30	H31要求	
	事業費	当初予算・・・①		2,492	2,492	3,274	0	
		補正予算・・・②		△ 137	942	0	0	
		繰越し等・・・③		0	0	0	0	
		財源内訳	一般財源		2,355	3,434	3,274	0
			国支出金		0	0	0	0
			府支出金		0	0	0	0
			地方債		0	0	0	0
			その他特財		0	0	0	0
	特定財源名称 (H29実績)					頁		
						頁		
	職員人件費	従事職員数(正職/嘱託)		0.09/0	0.09/0	0.09/0		
		概算人件費・・・④		720	720	720		
総事業費(①+②+③+④)・・・⑤			3,075	4,154	3,994			
執行状況	執行額・・・⑥		2,355	3,434				
	執行率(⑥/(①+②+③)×100)		100.0%	100.0%				
業績指標	成果実績 (アウトカム) 実績/当初目標	指標	単位	H28	H29	H30	最終目標	
		丹鉄福知山市内駅平均乗客数	人/日	1,425/1,532	1,383/1,542	/1,572	1,572	
	大江駅平均乗客数	人/日	95/102	73/81	/83			
	活動実績 (アウトプット) 実績/当初見込	指標	単位	H28	H29	H30	最終目標	
		京都丹後鉄道利用促進協議会会議開催数	回/年	3/3	3/3	/3	3	
		単位あたりコスト		785.0	1,144.7			
丹鉄福知山市内駅平均乗客数		人/日	1,425/1,532	1,383/1,542	/1,572	1,572		
単位あたりコスト		1.7	2.5					

		項目	評価	評価に対する説明
一次評価 ▽担当課による自己評価△	必要性	市民や社会のニーズを的確に捉えた事業か	○	丹鉄沿線住民の貴重な交通移動手段として、なくてはならない路線であり、その路線維持のために市が積極的に取り組む必要がある。
		民間事業者や市民が自ら実施することのできない事業か	△	
		目的・目標の達成手段として適切で、優先度の高い事業か	○	
	効率性	受益者との負担関係や単位あたりコストは妥当な水準か	○	大江駅に特急列車の停車に対応するためには、集改札業務が必要であり、本市の観光などの経済活性化にはなくてはならない業務である。
		他の手段や方法とのコスト比較は十分行われているか	○	
		コスト削減や効率化に向けた工夫が施されているか	○	
	有効性	成果目標は理にかなない、実績は適切に把握・測定されているか	○	丹鉄の乗客が目標を下回っているが、継続して事業を行い、乗客増を目指していく。
		活動実績は見込みに沿い、かつ投入資源に見合っているか	○	
		先行事例の分析や外部資源の活用は十分行われたか	○	
		目的及び指標等の達成状況に対する評価	丹鉄乗客数は目標を下回っているが、継続して事業を行い、沿線住民にマイレール意識の高揚と利用促進の広報宣伝活動を実施する必要がある。	
	今後の課題及び方向性	平成27年4月から上下分離方式により、WILLER TRAINS(株)が京都丹後鉄道として運行主体となっている。民間企業のノウハウやバス事業で培った運行実績などを活かしながら、協力して持続可能な公共交通として利用促進を図っていく。		
庁内及び外部による評価	二次評価 (庁内) 【行革担当課記入】	所 見		
	三次評価 (外部) 【行革担当課記入】	所 見		
来年度方針	担当課の事業の見直し及び予算要求方針	<b>方針区分</b>  <input type="checkbox"/> 廃止/休止 <input checked="" type="checkbox"/> 他事業と統合し組替 <input type="checkbox"/> 予算縮減を伴う見直し <input type="checkbox"/> 予算増減のない見直し <input type="checkbox"/> 予算拡充を伴う見直し <input type="checkbox"/> 事業の見直しなし	<b>内 容</b>  沿線住民にマイレール意識の高揚と利用促進の広報宣伝活動を実施する必要があり、引き続き同様の取組を進める。  【H29棚卸しに係る見直し状況】 平成31年度から、同目的事業であるJR福知山線複線化等促進事業、丹鉄関連施設管理事業とともに、鉄道利用促進事業に統合した。	
	予算への反映 【財政担当課記入】	<b>予算額の反映状況(対H30)</b>  <input type="checkbox"/> 維持 <input type="checkbox"/> 組替 <input type="checkbox"/> 縮減 <input type="checkbox"/> 廃止/休止 <input type="checkbox"/> 拡充	<b>担当課の見直し・要求方針に対する所見【行革担当課記入】</b>	

平成30年度 事務事業評価シート

(単位:千円)

事業属性	事業名(コード)	KTR支援事業 (110106)			担当課	生活交通課		
	開始年度	平成8(1996)	終了予定年度	平成32(2020)	作成責任者	横山 晋		
	歳出費目	款) 総務費	項) 総務管理費	目) 交通対策費	決算附属資料	80	頁	
	施策の大綱	公共交通の最適化			関連計画等	-		
	施策名	利用しやすい鉄道機能を確保する			根拠法令等	-		
	事業区分	<input type="checkbox"/> 法定受託事務 <input type="checkbox"/> 国府補助事業 <input checked="" type="checkbox"/> 市単独事業 <input type="checkbox"/> その他 ( )						
基礎情報	事業目的 (あるべき姿)	KTRの安定した経営を支援し、市民の貴重な移動手段である京都丹後鉄道の安心で安全な運行を確保するとともに、沿線自治体等と連携し、KTRの健全経営を推進する。						
	対象者	京都丹後鉄道利用者(年)	対象者数	1,761,478	一人当たりコスト	0.09		
	実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 業務委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input checked="" type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> その他 〈委託先・実施主体等〉 北近畿タンゴ鉄道株式会社						
	事業概要	KTRの経営の安定を図り、安全で安心な公共交通として維持するための財政支援を行う。 (追記)【特定財源名称(H29実績)】 ・KTR支援事業(過疎対策) 22,400 市債 48頁 ・KTR支援事業(旧合併特例) 15,400 市債 48頁						
	主な経費と 具体的内容 (H29実績)	項目		具体的な内容			H29経費	
		KTRへの補助金		KTRへの経営支援			144,436	
関連事業								
予算と執行の 状況	区分			H28	H29	H30	H31要求	
	事業費	当初予算・・・①		131,368	147,662	126,010	143,473	
		補正予算・・・②		△ 4,370	11,661	0		
		繰越し等・・・③		16,418	△ 11,661	11,661	0	
		財源内訳	一般財源		60,822	0	893	0
			国支出金		16,418	0	0	0
			府支出金		0	0	0	0
			地方債		23,000	43,000	26,600	30,600
			その他特財		43,176	104,662	110,178	112,873
			特定財源名称 (H29実績)	地域振興基金繰入金		64,100	基金繰入金	36 頁
		過疎地域自立促進基金繰入金		42,400	基金繰入金	38 頁		
	職員人件費	従事職員数(正職/嘱託)		0.55/0	0.55/0	0.55/0	/	
		概算人件費・・・④		4,400	4,400	4,400		
総事業費(①+②+③+④)・・・⑤			147,816	152,062	142,071			
執行状況	執行額・・・⑥		136,943	144,436				
	執行率(⑥/(①+②+③)×100)		95.5%	97.8%				
業績指標	成果実績 (アウトカム) 実績/当初目標	指標	単位	H28	H29	H30	最終目標	
		丹鉄福知山市内駅平均乗客数	人/日	1,425/1,532	1,385/1,542	/1,542	1,572	
		丹後鉄道全体平均乗客数	人/日	4,948/5,320	4,826/5,355	/5,355	5,460	
	活動実績 (アウトプット) 実績/当初見込	指標	単位	H28	H29	H30	最終目標	
		京都丹後鉄道利用促進協議会会議開催数	回/年	3/3	3/3	/3	3	
		単位あたりコスト		45,647.7	48,145.3			
		丹後鉄道全体平均乗客数	人/日	4,948/5,320	4,826/5,355	/5,355	5,460	
単位あたりコスト		27.7	29.9					

		項目	評価	評価に対する説明
一次評価 ▽担当課による自己評価△	必要性	市民や社会のニーズを的確に捉えた事業か	○	市民の貴重な交通手段として、また、福知山駅を中心としたまちづくりや本市の観光・ビジネスによる経済活動活性化のために、なくてはならない路線である。
		民間事業者や市民が自ら実施することのできない事業か	△	
		目的・目標の達成手段として適切で、優先度の高い事業か	○	
	効率性	受益者との負担関係や単位あたりコストは妥当な水準か	△	経営支援を行うことで、鉄道の安全な運行が確保されるとともに、利用者の利便性が確保される。
		他の手段や方法とのコスト比較は十分行われているか	○	
		コスト削減や効率化に向けた工夫が施されているか	○	
	有効性	成果目標は理にかなない、実績は適切に把握・測定されているか	△	先行的な支援を行い、経営改善につながるような取り組みを推進していく必要がある。
		活動実績は見込みに沿い、かつ投入資源に見合っているか	△	
		先行事例の分析や外部資源の活用は十分行われたか	○	
		目的及び指標等の達成状況に対する評価	京都丹後鉄道は沿線地域の人々の貴重な移動手段であり、京都府北部地域の振興と、本市の都市機能に欠かせない交通基盤である。この交通基盤を維持し、地域の活力向上につなげるため、府や関係市町と連携し継続してKTRに支援を行う。	
	今後の課題及び方向性	平成27年4月から上下分離方式による再構築を行い、基盤保有会社〔北近畿タンゴ鉄道株式会社(KTR)〕と運行会社〔WILLER TRAINS株式会社〕による事業展開を行っている。京都府をはじめ、沿線自治体と連携して、安全運行に必要な基盤を維持し、沿線地域の活性化と交流の拡大を促進するために引き続きKTRに支援を行う。		
庁内及び外部による評価	二次評価 (庁内) 【行革担当課記入】	所見		
	三次評価 (外部) 【行革担当課記入】	所見		
来年度方針	担当課の事業の見直し及び予算要求方針	方針区分	内容	
		<input type="checkbox"/> 廃止/休止 <input type="checkbox"/> 他事業と統合し組替 <input type="checkbox"/> 予算縮減を伴う見直し <input type="checkbox"/> 予算増減のない見直し <input type="checkbox"/> 予算拡充を伴う見直し <input checked="" type="checkbox"/> 事業の見直しなし	安全で快適な運行を確保し、沿線住民の貴重な移動手段として守り続けていくために、平成31年度も京都府や沿線市町と連携し、継続してKTRの支援を行う。 【H29棚卸しに係る見直し状況】 本事業は、特定財源を活用したKTRへの直接支援を行うものであり、市民協働による利用促進や要望活動を行う他の関連事業とは性質が異なっているため、それらとの事業統合は行わない。	
	予算への反映 【財政担当課記入】	予算額の反映状況(対H30)	担当課の見直し・要求方針に対する所見【行革担当課記入】	
		<input type="checkbox"/> 維持 <input type="checkbox"/> 組替 <input type="checkbox"/> 縮減 <input type="checkbox"/> 廃止/休止 <input type="checkbox"/> 拡充		

平成30年度 事務事業評価シート

(単位:千円)

事業属性	事業名(コード)	丹鉄関連施設管理事業 (110108)			担当課	生活交通課		
	開始年度	昭和63(1988)	終了予定年度	平成32(2020)	作成責任者	横山 晋		
	歳出費目	款) 総務費	項) 総務管理費	目) 交通対策費	決算附属資料	80	頁	
	施策の大綱	公共交通の最適化			関連計画等	-		
	施策名	利用しやすい鉄道機能を確保する			根拠法令等	-		
	事業区分	<input type="checkbox"/> 法定受託事務 <input type="checkbox"/> 国府補助事業 <input checked="" type="checkbox"/> 市単独事業 <input type="checkbox"/> その他 ( )						
基礎情報	事業目的 (あるべき姿)	京都丹後鉄道宮福線の駅前広場の清掃・維持管理を委託し、利用環境の維持・改善を図り利用を促進する。						
	対象者	京都丹後鉄道福知山市内駅の乗客	対象者数	543,367	一人当たりコスト	0.00		
	実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 業務委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> その他 〈委託先・実施主体等〉 牧自治会他						
	事業概要	京都丹後鉄道市内駅の駅前広場の清掃等、維持管理に要する経費。 該当駅(8駅): 福知山市民病院口駅、荒河かしの木台駅、牧駅、下天津駅、公庄駅、大江高校前駅、二俣駅、大江山内宮駅						
	主な経費と 具体的内容 (H29実績)	項目		具体的な内容			H29経費	
		委託料		駅前広場清掃業務(5駅分)			476	
需用費		京都丹後鉄道駅前広場光熱水費			376			
役務費		京都丹後鉄道駅前広場(牧駅・下天津駅)せん定手数料等			207			
関連事業	丹鉄利用促進事業							
予算と執行の状況	区分			H28	H29	H30	H31要求	
	事業費	当初予算・・・①		899	899	877	0	
		補正予算・・・②		△ 27	160	0	0	
		繰越し等・・・③		0	0	0	0	
		財源内訳	一般財源		872	1,042	877	0
			国支出金		0	0	0	0
			府支出金		0	0	0	0
			地方債		0	0	0	0
	その他特財		0	17	0	0		
	特定財源名称 (H29実績)	過年度漏水減免返戻金			17	雑入	44 頁	
	職員人件費	従事職員数(正職/嘱託)		0.17/0	0.17/0	0.17/0	/	
概算人件費・・・④		1,360	1,360	1,360				
総事業費(①+②+③+④)・・・⑤			2,232	2,419	2,237			
執行状況	執行額・・・⑥		872	1,059				
	執行率(⑥/(①+②+③)×100)		100.0%	100.0%				
業績指標	成果実績 (アウトカム) 実績/当初目標	指標	単位	H28	H29	H30	最終目標	
		丹鉄福知山市内駅平均乗客数	人/日	1,425/1,532	1,383/1,542	/1,542	1,572	
	活動実績 (アウトプット) 実績/当初見込	指標	単位	H28	H29	H30	最終目標	
		駅前広場清掃回数(5か所)	回/年	120/120	120/120	/120	120	
		単位あたりコスト		7.3	8.8			
		単位あたりコスト		/	/	/		

		項目	評価	評価に対する説明
一次評価 ▽担当課による自己評価△	必要性	市民や社会のニーズを的確に捉えた事業か	○	環境改善を通じてマイレール意識の醸成に必要である。
		民間事業者や市民が自ら実施することのできない事業か	○	
		目的・目標の達成手段として適切で、優先度の高い事業か	○	
	効率性	受益者との負担関係や単位あたりコストは妥当な水準か	○	地域住民に管理委託することできめ細かな対応ができる。
		他の手段や方法とのコスト比較は十分行われているか	○	
		コスト削減や効率化に向けた工夫が施されているか	○	
	有効性	成果目標は理にかなない、実績は適切に把握・測定されているか	△	丹鉄を気持ちよく利用していただくためにも継続して事業を行う。
		活動実績は見込みに沿い、かつ投入資源に見合っているか	△	
		先行事例の分析や外部資源の活用は十分行われたか	△	
		目的及び指標等の達成状況に対する評価	地域の貴重な公共交通機関である京都丹後鉄道駅前広場の環境改善を図ることで、利用促進を図るとともに地域組織等に管理委託し駅に愛着を持ってもらう。	
	今後の課題及び方向性	駅前広場の環境改善を通じてマイレール意識の醸成につながるよう継続して事業を行う。		
庁内及び外部による評価	二次評価 (庁内) 【行革担当課記入】	所 見		
	三次評価 (外部) 【行革担当課記入】	所 見		
来年度方針	担当課の事業の見直し及び予算要求方針	方針区分  <input type="checkbox"/> 廃止/休止 <input checked="" type="checkbox"/> 他事業と統合し組替 <input type="checkbox"/> 予算縮減を伴う見直し <input type="checkbox"/> 予算増減のない見直し <input type="checkbox"/> 予算拡充を伴う見直し <input type="checkbox"/> 事業の見直しなし	内 容  地域の貴重な公共交通機関である京都丹後鉄道駅前広場の環境改善を図ることで、利用促進を図るとともに地域組織等に管理委託し駅に愛着を持ってもらう必要があり、引き続き同様の取組を進める。  【H29棚卸しに係る見直し状況】 平成31年度から、同目的事業であるJR福知山線複線化等促進事業、丹鉄利用促進事業とともに、鉄道利用促進事業に統合した。	
	予算への反映 【財政担当課記入】	予算額の反映状況(対H30)  <input type="checkbox"/> 維持 <input type="checkbox"/> 組替 <input type="checkbox"/> 縮減 <input type="checkbox"/> 廃止/休止 <input type="checkbox"/> 拡充	担当課の見直し・要求方針に対する所見【行革担当課記入】	



平成30年度 事務事業評価シート

(単位:千円)

事業属性	事業名(コード)	駅周辺公共施設管理事業 (110184)			担当課	都市計画課		
	開始年度	平成22(2010)	終了予定年度	平成32(2020)	作成責任者	丸山 政幸		
	歳出費目	款) 土木費	項) 都市計画費	目) 都市計画総務費	決算附属資料	198・200	頁	
	施策の大綱	公共交通の最適化			関連計画等	-		
	施策名	利用しやすい鉄道機能を確保する			根拠法令等	-		
	事業区分	<input type="checkbox"/> 法定受託事務 <input type="checkbox"/> 国府補助事業 <input checked="" type="checkbox"/> 市単独事業 <input type="checkbox"/> その他 ( )						
基礎情報	事業目的 (あるべき姿)	福知山駅を利用する通勤者・通学者、福知山駅周辺への買い物客、福知山駅への送迎者の利便性を向上させるとともに、不法駐輪及び不法駐車を抑止し、歩行者等の安全確保、良好な都市空間の形成を図る。						
	対象者	市民	対象者数	78,943	一人当たりコスト	0.65		
	実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 業務委託 <input checked="" type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> その他 〈委託先・実施主体等〉 有限会社京都事務機販売						
	事業概要	福知山市自転車等駐車場及び福知山市駅前広場について、指定管理者制度による管理運営の委託を実施している。市営福知山駅東西駐輪場、福知山駅南北広場駐車場が主な施設である。そのほか福知山駅南北広場バス・タクシー待機場、福知山駅南北公衆トイレを管理している。						
	主な経費と 具体的内容 (H29実績)	項目		具体的な内容			H29経費	
		需用費		消耗品費、印刷製本費、施設修繕料			202	
役務費		施設保険料、郵送料			25			
委託料		指定管理料			36,142			
工事請負費		市営福知山駅駐輪場ラック入替工事費			4,323			
備品購入費		土木建設部シュレッダー購入費			29			
関連事業	鉄道網整備事業及び関連都市計画事業基金積立事業							
予算と執行の 状況	区分		H28	H29	H30	H31要求		
	事業費	当初予算・・・①	41,690	43,526	41,351	41,220		
		補正予算等・・・②	1,546	△ 2	0	0		
		繰越し等・・・③	0	0	0	0		
		財源内訳	一般財源	22,649	19,271	15,767	16,004	
			国支出金	0	0	0	0	
			府支出金	0	0	0	0	
			地方債	0	0	0	0	
	その他特財		20,587	24,253	25,584	25,216		
	特定財源名称 (H29実績)	駅東駐輪場使用料		11,103	使用料	10 頁		
		駅周辺公共施設管理事業基金		4,323	基金繰入金	38 頁		
職員人件費	従事職員数(正職/嘱託)	1.4/0	1.0/0	1.0/0	/			
	概算人件費・・・④	11,200	8,000	8,000				
総事業費(①+②+③+④)・・・⑤		54,436	51,524	49,351				
執行状況	執行額・・・⑥		39,352	40,721				
	執行率(⑥/(①+②+③)×100)		91.0%	93.6%				
業績指標	成果実績 (アウトカム) 実績/当初目標	指標	単位	H28	H29	H30	最終目標	
		実績赤字額(使用料収入額-執行額)	千円	-18,637	-16,180	/	-15,664	
		駐輪場稼働率	%	54	58	/	60	
	活動実績 (アウトプット) 実績/当初見込	指標	単位	H28	H29	H30	最終目標	
		駐輪場使用料	千円	13,055	12,560		13,059	
		単位あたりコスト		3.0	3.2			
駐輪場総利用台数	台	269,005	278,130		154,050			
単位あたりコスト		0.1	0.1					

		項目	評価	評価に対する説明
一次評価 ▽担当課による自己評価△	必要性	市民や社会のニーズを的確に捉えた事業か	○	駐輪場については、福知山駅を利用する通学者が多いため、鉄道利用の促進、通学手段の確保という観点から必要不可欠である。
		民間事業者や市民が自ら実施することのできない事業か	○	
		目的・目標の達成手段として適切で、優先度の高い事業か	○	
	効率性	受益者との負担関係や単位あたりコストは妥当な水準か	○	施設の管理運営を指定管理者に委託し、人件費や施設管理に係る経費の削減に努めている。
		他の手段や方法とのコスト比較は十分行われているか	○	
		コスト削減や効率化に向けた工夫が施されているか	○	
	有効性	成果目標は理にかなない、実績は適切に把握・測定されているか	○	当初の設置目的は達成しており、収入や利用者数は横ばいで推移している。
		活動実績は見込みに沿い、かつ投入資源に見合っているか	○	
		先行事例の分析や外部資源の活用は十分行われたか	○	
		目的及び指標等の達成状況に対する評価	・福知山駅の利便性の向上が図れるとともに不法駐車や不法駐輪を抑制することで、歩行者の安全確保ができ、良好な都市空間の創出に寄与できた。	
	今後の課題及び方向性	・設置当初の目的は達成しており、今後は、駐輪場の利用状況により、施設のあり方を検討する必要がある。		
庁内及び外部による評価	二次評価 (庁内) 【行革担当課記入】	所 見		
	三次評価 (外部) 【行革担当課記入】	所 見		
来年度方針	担当課の事業の見直し及び予算要求方針	方針区分	内 容	
		<input type="checkbox"/> 廃止/休止 <input type="checkbox"/> 他事業と統合し組替 <input type="checkbox"/> 予算縮減を伴う見直し <input type="checkbox"/> 予算増減のない見直し <input type="checkbox"/> 予算拡充を伴う見直し <input checked="" type="checkbox"/> 事業の見直しなし	福知山駅周辺の公共施設に供する必要経費であり、大幅な縮減はできない。予算は若干縮小されているが、指定管理業務の慣れにより作業効率が増し、それに伴う費用減少であり、実施する業務は平成30年度と同様である。  【H29棚卸しによる見直し状況】 各駐車場・駐輪場に対しての収支を算出し、現状を把握することで計画的な運営を実施した。施設利用者増加に貢献するため、指定管理者がホームページを作成した。平成32年度は福知山駐輪場ラック工事の終了に伴い、予算縮小が見込まれる。	
	予算への反映 【財政担当課記入】	予算額の反映状況(対H30)	担当課の見直し・要求方針に対する所見【行革担当課記入】	
		<input type="checkbox"/> 維持 <input type="checkbox"/> 組替 <input type="checkbox"/> 縮減 <input type="checkbox"/> 廃止/休止 <input type="checkbox"/> 拡充		

平成30年度 事務事業評価シート

(単位:千円)

事業属性	事業名(コード)	鉄道利用促進事業 (120114)			担当課	生活交通課	
	開始年度	昭和61(1986)	終了予定年度	平成32(2020)	作成責任者	横山 晋	
	歳出費目	款) 総務費	項) 総務管理費	目) 交通対策費	決算附属資料	82	頁
	施策の大綱	公共交通の最適化			関連計画等	-	
	施策名	利用しやすい鉄道機能を確保する			根拠法令等	-	
	事業区分	<input type="checkbox"/> 法定受託事務 <input type="checkbox"/> 国府補助事業 <input checked="" type="checkbox"/> 市単独事業 <input type="checkbox"/> その他 ( )					
基礎情報	事業目的 (あるべき姿)	JR・丹鉄の利用に対する補助事業の実施や啓発事業を行うことで、鉄道の利用促進を図る。					
	対象者	全市民	対象者数	78,956	一人当たりコスト	0.04	
	実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 業務委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input checked="" type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> その他 <委託先・実施主体等> 福知山市鉄道利用増進協議会					
	事業概要	福知山市鉄道利用増進協議会に補助金を交付し、利用促進のための事業を実施する。					
	主な経費と 具体的内容 (H29実績)	項目		具体的な内容			H29経費
		補助金		福知山市鉄道利用増進協議会への補助金			420
関連事業							
予算と執行の状況	区分			H28	H29	H30	H31要求
	事業費	当初予算・・・①		800	420	420	36,186
		補正予算・・・②		0	0	0	
		繰越し等・・・③		0	0	0	0
	財源内訳	一般財源		800	420	420	5,686
		国支出金		0	0	0	0
		府支出金		0	0	0	0
		地方債		0	0	0	30,500
		その他特財		0	0	0	0
		特定財源名称 (H29実績)					頁 頁
	職員人件費	従事職員数(正職/嘱託)		0.35/0	0.35/0	0.35/0	/
概算人件費・・・④		2,800	2,800	2,800			
総事業費(①+②+③+④)・・・⑤			3,600	3,220	3,220		
執行状況	執行額・・・⑥		800	420			
	執行率(⑥/(①+②+③)×100)		100.0%	100.0%			
業績指標	成果実績 (アウトカム) 実績/当初目標	指標	単位	H28	H29	H30	最終目標
		教育機関補助利用件数	件	69/65	72/65	/65	65
		企画旅行補助利用件数		3/5	4/5	/5	5
	活動実績 (アウトプット) 実績/当初見込	指標	単位	H28	H29	H30	最終目標
		協議会への補助金	千円	800/800	420/800	/800	970
		単位あたりコスト		1.0	1.0		
			/	/	/		
	単位あたりコスト						

		項目	評価	評価に対する説明
一次評価 ▽担当課による自己評価△	必要性	市民や社会のニーズを的確に捉えた事業か	○	鉄道網の整備・拡充による福知山駅を中心とした中心市街地活性化や沿線住民の貴重な移動手段である公共交通を維持していくために必要である。
		民間事業者や市民が自ら実施することのできない事業か	○	
		目的・目標の達成手段として適切で、優先度の高い事業か	○	
	効率性	受益者との負担関係や単位あたりコストは妥当な水準か	○	教育機関利用団体補助については毎年多くの利用があり、利用増進に一定の成果があった。
		他の手段や方法とのコスト比較は十分行われているか	○	
		コスト削減や効率化に向けた工夫が施されているか	○	
	有効性	成果目標は理にかなない、実績は適切に把握・測定されているか	○	教育機関・企画旅行補助及びポケット時刻表の作成等により利用促進と鉄道網の維持に取り組む。
		活動実績は見込みに沿い、かつ投入資源に見合っているか	○	
		先行事例の分析や外部資源の活用は十分行われたか	○	
		目的及び指標等の達成状況に対する評価	教育機関利用補助、鉄道利用企画旅行補助とも前年度の件数を上回り、また鉄道利用啓発事業として、JR西日本との共同企画であるディスカバーウエストハイキングを実施することで利用促進に一定の成果があった。	
	今後の課題及び方向性	引き続き、これまでの事業を行うが、企画旅行補助金については、交付要綱を見直しさらなる利用促進を図る。		
庁内及び外部による評価	二次評価 (庁内) 【行革担当課記入】	所 見		
	三次評価 (外部) 【行革担当課記入】	所 見		
来年度方針	担当課の事業の見直し及び予算要求方針	<b>方針区分</b>  <input type="checkbox"/> 廃止/休止 <input checked="" type="checkbox"/> 他事業と統合し組替 <input type="checkbox"/> 予算縮減を伴う見直し <input type="checkbox"/> 予算増減のない見直し <input type="checkbox"/> 予算拡充を伴う見直し <input type="checkbox"/> 事業の見直しなし	<b>内 容</b>  平成30年度から、同目的事業であるJR福知山線複線化等促進事業、丹鉄利用促進事業、丹鉄関連施設管理事業を統合し、本事業の中で引き続き同様の取組を進める。 なお、事業内容は変更しないが、それぞれ歳出削減に努め平成31年度予算については各費目において一部減額する。	
	予算への反映 【財政担当課記入】	予算額の反映状況(対H30)  <input type="checkbox"/> 維持 <input type="checkbox"/> 組替 <input type="checkbox"/> 縮減 <input type="checkbox"/> 廃止/休止 <input type="checkbox"/> 拡充	担当課の見直し・要求方針に対する所見【行革担当課記入】	

平成30年度 事務事業評価シート

(単位:千円)

事業属性	事業名(コード)	高校生定期乗車券補助事業 (120162)			担当課	生活交通課			
	開始年度	平成23(2011)	終了予定年度	平成29(2017)	作成責任者	横山 晋			
	歳出費目	款) 総務費	項) 総務管理費	目) 交通対策費	決算附属資料	82	頁		
	施策の大綱	公共交通の最適化			関連計画等	-			
	施策名	利用しやすい鉄道機能を確保する			根拠法令等	-			
	事業区分	<input type="checkbox"/> 法定受託事務 <input type="checkbox"/> 国府補助事業 <input checked="" type="checkbox"/> 市単独事業 <input type="checkbox"/> その他 ( )							
基礎情報	事業目的 (あるべき姿)	路線バスや鉄道を利用して遠距離通学する高校生の定期乗車券購入費用の一部を助成することにより、保護者の負担を軽減するとともに、公共交通の利用促進を図る。							
	対象者	市内在住の対象となり得る高校生の保護者	対象者数	208	一人当たりコスト	22.49			
	実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 業務委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input checked="" type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> その他 <委託先・実施主体等>							
	事業概要	通学定期券購入額が1か月の金額で7,200円を超える部分の額について75%相当額を補助金として交付する。対象となる購入金額の上限は22,100円とし、1か月あたりに換算した金額を基準とする。							
	主な経費と 具体的内容 (H29実績)	項目		具体的な内容			H29経費		
		負担金補助及び交付金		高校生通学定期乗車券補助金			2,625		
需用費		消耗品費(プリンタナー・リソグラフマスター)			36				
役務費		通知等郵送料			16				
関連事業									
予算と執行の状況	区分			H28	H29	H30	H31要求		
	事業費	当初予算・・・①		2,825	2,559	0	0		
		補正予算・・・②		△ 322	118	0	0		
		繰越し等・・・③		0	0	0	0		
	財源内訳	一般財源		1,778	1,877	0	0		
		国支出金		0	0	0	0		
		府支出金		0	0	0	0		
		地方債		0	0	0	0		
		その他特財		725	800	0	0		
		特定財源名称 (H29実績)	過疎基金繰入			900	基金繰入金	38	頁
	職員人件費	従事職員数(正職/嘱託)		0.20/0	0.25/0	0/0	/		
概算人件費・・・④		1,600	2,000	0					
総事業費(①+②+③+④)・・・⑤			4,103	4,677	0				
執行状況	執行額・・・⑥			2,340	2,677				
	執行率(⑥/(①+②+③)×100)			93.5%	100.0%				
業績指標	成果実績 (アウトカム) 実績/当初目標	指標	単位	H28	H29	H30	最終目標		
		高校生通学定期券補助人数	人	59/50	61/50	/			
				/	/	/			
	活動実績 (アウトプット) 実績/当初見込	指標	単位	H28	H29	H30	最終目標		
		周知活動	件	2/8	3/8	/			
		単位あたりコスト		2,348.0					
			/	/	/				
	単位あたりコスト								

		項目	評価	評価に対する説明
一次評価 ▽担当課による自己評価△	必要性	市民や社会のニーズを的確に捉えた事業か	○	保護者の通学費負担額の均衡化を図り、教育機会の均等を図るとともに、公共交通の利用を促進するために市が積極的に関与する必要がある。
		民間事業者や市民が自ら実施することのできない事業か	○	
		目的・目標の達成手段として適切で、優先度の高い事業か	○	
	効率性	受益者との負担関係や単位あたりコストは妥当な水準か	○	概ね制度は浸透してきたが、継続したPRが必要である。
		他の手段や方法とのコスト比較は十分行われているか	○	
		コスト削減や効率化に向けた工夫が施されているか	○	
	有効性	成果目標は理にかなない、実績は適切に把握・測定されているか	○	公共交通を利用して遠距離通学する高校生の保護者の経済的負担を軽減することができ、高等教育の機会均等と公共交通の利用促進につながる。
		活動実績は見込みに沿い、かつ投入資源に見合っているか	△	
		先行事例の分析や外部資源の活用は十分行われたか	○	
		目的及び指標等の達成状況に対する評価	定期券の購入金額の一部を補助することにより、公共交通の利用促進につなげている。	
	今後の課題及び方向性	平成30年度より既存の福祉制度と統合し、経済的に困難な家庭に対して子どもの通学にかかる費用を助成し、経済的負担を軽減する制度に見直しの上で、所管を福祉部局に移管する。		
庁内及び外部による評価	二次評価 (庁内) 【行革担当課記入】	所 見		
	三次評価 (外部) 【行革担当課記入】	所 見		
来年度方針	担当課の事業の見直し及び予算要求方針	<b>方針区分</b>  <input type="checkbox"/> 廃止/休止 <input checked="" type="checkbox"/> 他事業と統合し組替 <input type="checkbox"/> 予算縮減を伴う見直し <input type="checkbox"/> 予算増減のない見直し <input type="checkbox"/> 予算拡充を伴う見直し <input type="checkbox"/> 事業の見直しなし	<b>内 容</b>  平成30年度からは、所得制限を設定し、中学校・高等学校等通学支援事業として、子ども政策室所管事業としている。	
	予算への反映 【財政担当課記入】	予算額の反映状況(対H30)  <input type="checkbox"/> 維持 <input type="checkbox"/> 組替 <input type="checkbox"/> 縮減 <input type="checkbox"/> 廃止/休止 <input type="checkbox"/> 拡充	担当課の見直し・要求方針に対する所見【行革担当課記入】	